

継続的な学習につなげるための日本語学習サイトの工夫

ー学習のハードル、学習への興味の観点からー

伊藤秀明（筑波大学／元国際交流基金関西国際センター）

石井容子（国際交流基金関西国際センター）・前田純子（国際交流基金関西国際センター）

楽しく自由に学習を
続けられる教材が欲しい。

日本語だけではなく、
日本の文化にも触れられる教材も欲しい。

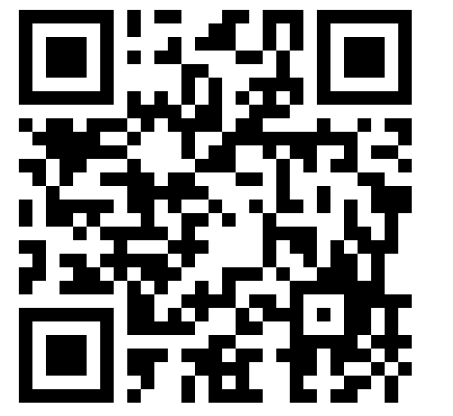
「自分の楽しみを日本語学習に!」を

コンセプトに

<https://hirogaru-nihongo.jp>



を開発



- ・5000名を超える日本語学習へのアンケートによって、12のトピックを選定
- ・12のトピックに付随する動画、Blog風の記事、漢字、食、コメント欄などを提供

学習のハードルを下げる

学習を阻害する様々な要因

レスポンスデザインの採用

- 使用場面のハードル
→所有率の上昇(伊藤ほか 2016)
→手軽にどこでも閲覧(学習を気軽に)



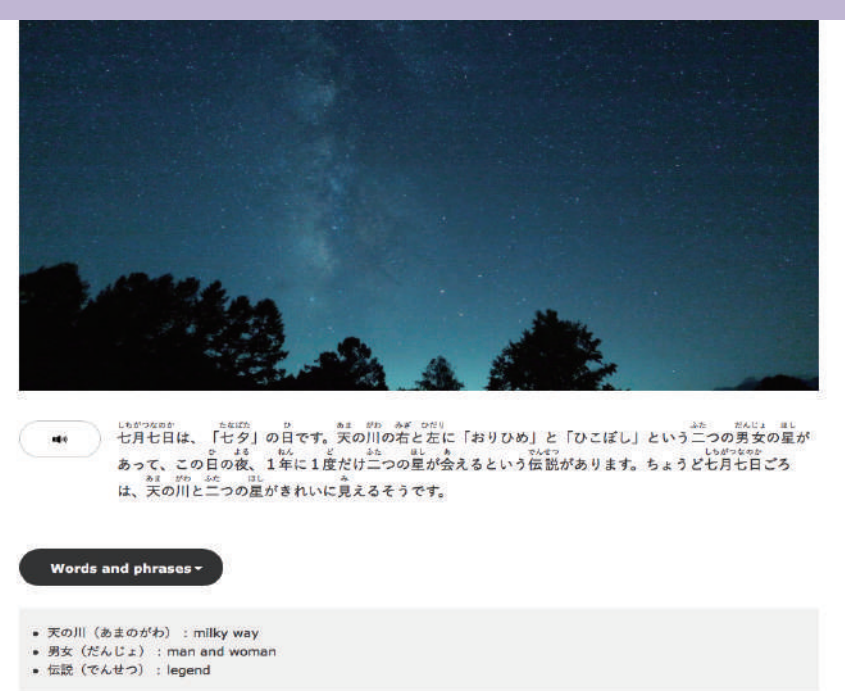
ルビの有無の切り替え

- 漢字のハードル
→設定したルビを自由にON/OFF



写真や動画の多用

- 閲覧に伴う心理的ハードル
→視覚的な補助で心理的負担を軽減



言語ページごとの役割

- 意欲と理解の狭間のハードル
→意欲の補助は日本語ページ
→理解の補助は英語ページ
→目的に応じた自律的な使い分け

内容理解のためのクイズ

- 学習と楽しみの狭間のハードル
→確認は必要、でも形式は簡易



学習への興味の継続

学習を動機付けする様々な要因

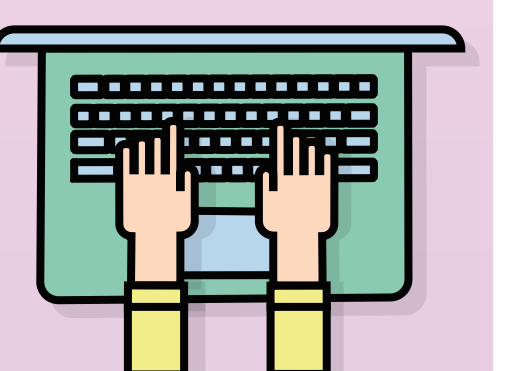
トピックベースの素材

- 語学学習として利用しやすいトピック
→学習者の興味があるものを調査
→「興味のある素材で学習」への転換



更新性

- コンテンツの回遊による理解度向上の錯覚
→更新による完成させないサイト作り
→興味に合わせたコンテンツ配信が可能

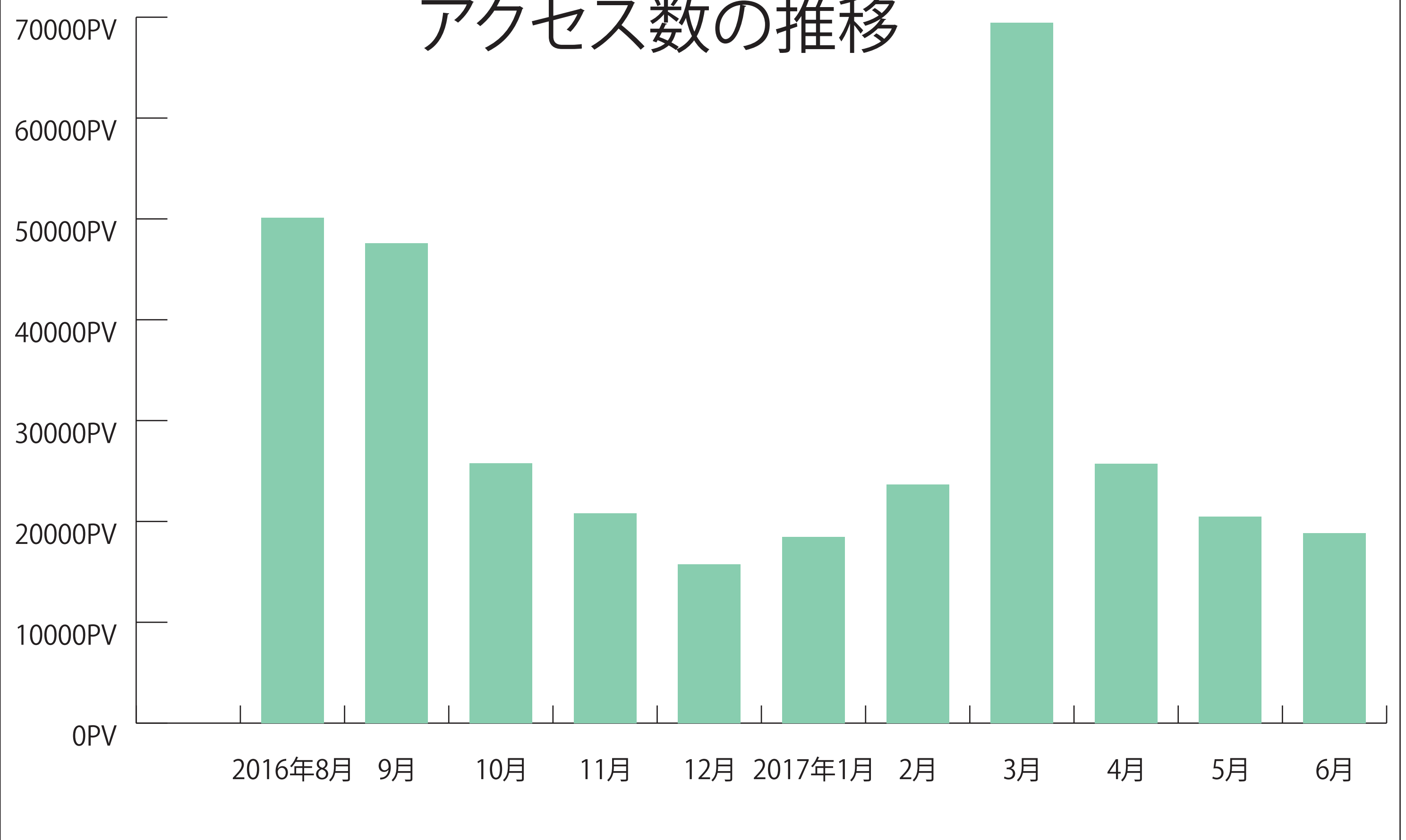


コメント欄の設置

- 閉じられた仲間同士のコミュニティ
→日本語はコミュニケーションの手段
→学んだ語彙を使える実感



アクセス数の推移



まとめ

- ・「学習のハードルを下げる」側面と「学習への興味を継続させる」側面への工夫を報告した。
- ・「日本語を趣味として学習しているユーザー」をターゲットユーザーと明確にしたことで、従来には見られなかったサイトを提供できた。

今後の課題

- ・実際にユーザーがどのように利用し、工夫をどのように感じているか、の意識調査

参考文献

伊藤秀明・石井容子・武田素子・山下悠貴乃(2016)「日本語学習者のネット利用状況と学習サイトへの期待ー海外11拠点の調査からー」『国際交流基金日本語教育紀要』第12号, 97-104.